

- 日 時：令和5年9月16日（土）10:40～12:30
- 場 所：都立大泉高校附属中学校（対象：中学校Ⅱ学年 160名）
- 講演者：国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
ムーンショット型研究開発事業部 鈴木 雅博 副調査役

■ 内 容：

タイトル「つくりたい未来社会は？そこに科学技術はどう関わるか？
-ムーンショットという挑戦-」

鈴木副調査役から、挑戦的な目標を設定し、その実現のために研究開発を進める“ムーンショット型研究開発制度”の概要について説明しました。“科学”、“研究”、“プロジェクト”等の中学校でも使われる言葉がもつ本来の意味の紹介(e.g.プロジェクト：project (前方(未来)に投げかける))を通し、壮大な研究開発プロジェクトと中学校での探究活動に共通する要素があること、課題解決のために価値感の異なる多様な人や分野の連携が重要であること等、多くの気づきにつながりました。講演後の質疑応答では「新技術がもたらすメリットにはリスクもあるのでは？」といった議論が行われました。

■ 講演後に生徒から寄せられた感想（抜粋）：

- ・大きな変化をもたらすものほど初めは受け入れられにくい。だから仲間やチームが必要で反対者も含め様々な人との対話が重要。
- ・非現実だと捉えられてしまったり、危険性を指摘されたりして対立するときも多くあるが、その時は「どちらが悪い」ではなくどこが同じでどこが違うのかを対話によって知ることが大切。
- ・ムーンショット型研究はわくわくするが、結果的に現在より状態が良くなるのかどうかを考えながら研究を進めることが大切と思った。
- ・未来を変えていくのは自分達だということを忘れずに、これからも探究活動を頑張っていきたいと思った。



講演風景①



講演風景②



質疑応答